

我流経営

JSBA対談 Volume.3 (2022.8)

株式会社プレステージプランニング 代表取締役 新満 守氏

Mamoru Shimimitsu



DXを積極的に推進する新満代表

時代は確実に変わる、DX推進は生き残るためにやる！

■聞き手 JSBA代表理事 高松健

高松 御社の事業内容を教えてください。

新満 都内を中心としたマンションの原状回復工事と、マンションのリノベーション事業が中心です。原状回復とは、マンション住居者が退去されたあと、次の方にご入居頂くために補修工事などを行う作業です。リノベーションは、マンションオーナーからの依頼によって、間取りを変えたり、床や壁などのデザインを変えたりする作業です。

高松 毎月どのくらいの数の工事を行っていますか？

新満 原状回復工事は、毎月500～600件超ですが、春の引っ越しシーズンなど、ピーク時は更に多くの工事があります。リノベーションは、内容や規模により件数も変わりますが、毎日100件前後の工事案件が動いている感じです。

高松 すごい数ですね！収益も順調に右肩上がりとのことですが、現在社内でDX（デジタルトランスフォーメーション）推進委員会を立ち上げ、DX化を図られていますね。

新満 はい、この業界はIT化やデジタル化が遅れているので、少しでも早く取り組みたいなと。

高松 なぜ順調なのに今急速に取り組まれているのですか？

新満 今の世の中や生活を見ていて、時代はあっという間に変わりましたし、今も大きく変わり続けていると思います。極端に言えば、明日私たちの仕事の仕方が全く通用なくなる可能性もあって、今できるうちに真剣にDX化を進めないと、生き残れないという強い危機感があるからです。

高松 社長ご自身もDXについて詳しいのですか？

新満 実は細かいことは私にもよく分かりません。（苦笑）

ですが、週1回2時間の会議には必ず出席して、各部門の責任者やDX推進のコンサルタントの話聞きながら、DX化すると社内の業務がどう変わるのか？また、どんな新しいビジネスができるのか？などを自分なりに考えています。

高松 社長自ら毎回ご出席されているんですね！

新満 やはり方針を決めた人が自ら参加することで、社員に本気度を示したいですし、社員がどのくらいDX化を理解し、取り組んでいっているのかを直接見たいですね。

高松 実際、社員の方の取り組みはどう評価されますか？

新満 いやー、正直なところ社員がここまで積極的に取り組むとは思っていませんでした。というか、DXのような取り組みをやりたかった社員は潜在的に多くいて、私が見えていなかっただけかも知れません。コンサルタントから専門用語が出て、しっかり会話をしながら進めているので驚きましたし、とても頼もしいです。推進を始めて半年ほどですが、デジタル化の社内トライアルも始まり、仕事の仕方が変わり始めると、社員も更にやる気をだしますね。

高松 社長ご自身がDX化の旗振り役として活動に参加されているというのが、デジタルネイティブの若者にとっては何よりの後ろ盾としてモチベーションが上がるのでしょうかね。次回は是非その成果についてもお聞かせください。本日はありがとうございました。



会社全体でDX推進に取り組む書類やコミュニケーションのデジタル化で、生産性向上や新サービスのイノベーションを生み出す



鳥越アズーリFMゲスト出演（中央）「アツイ社長のホットなランチタイム！」
2022年8月12日放送